

第3回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会 会議録

1 開催日時 平成25年12月15日(日) 午前10時00分～午前11時20分

2 場 所 市役所本庁舎3階 第1委員会室

3 出席者

委員 歌代委員、岡本委員、川上委員、川岸委員、前野委員、山本委員
(欠席者 加藤委員、武藤委員)

事務局 吉野次長、田中次長、岩井室長以下庁舎整備推進担当室4名

4 議 事

(1) 二次選考の実施方法について

【午前10時00分開会】

1 二次選考の採点方法と評価の進め方について

(1) 採点方法・進め方について

- ・二次選考の採点は、選考要領にそって行う。
- ・最初の点数は、全体のレベルを絞り込む点数とし、最後には、専門的な議論をしたなかで点数を見直す2回目の採点を行うのがよい。
- ・結果の公開にあたり、公平性・客観性をもった採点をしていることが重要である。
- ・5段階評価の真ん中(普通)の認識について、委員によりブレが出ないように共通の認識をもつ必要はないか。
- ・採点の基準については、委員の専門性を活かして自由裁量とし、あまり決めない方がよい。
- ・1次選考では、個別には多少のバラつきがあったが、全体的には合理的に採点されていた。委員により着眼点が違うのはやむを得ず、その違いはむしろそれぞれをカバーするという意味でよいと思う。
- ・見方が違うのはもっともなことで、委員会としては1社を選考することが大事であり、そのために議論し、全員が納得できるのがよい。
- ・採点をしてみたが、既に差がついている。専門性を活かし、詳細に2回目の採点を行い精査するのがよい。
- ・点数の違いがあったら、なんで評価したかを議論し、お互いに理解する。これを2回目の採点の前に行うことが重要なプロセスである。
- ・点数が低い場合として、キーワードに対する理解不足がある。キーワードで求めていることを満たしているか、否かによって点数が変わっていくことに

なる。

- ・5段階の意味付けは、要領のとおり「極めて高い」「高い」「普通」「やや低い」「低い」でよい

(まとめ)

- ・1回目の採点により、2～4社を目安に絞る。絞る会社数は採点結果を見て判断する。
- ・1回目の採点について議論したうえで、2回目の採点により1社を選考する。
- ・普通の捉え方は、各自の専門性を活かし普通を決める。

(2) 評価のキーワードについて

① 庁舎空間の考え方について

- ・海外では庁舎は『City hall』。市民がいろいろな活動ができ、それが市民に見えるような提案かが重要である。
- ・現状の調査・分析が重要である。部局の配置に踏み込んでいる提案もある。
- ・評価で大事なものは、各社の意気込みである。
- ・ガラス化やボイドは最近のトレンドである。しかし、ボイドを設けている場合、上階から個人情報が見えるようなことがあり、配慮しているか確認する必要がある。
- ・今後の庁舎では市民利用を考え、空間の区分や動線が考慮されているかを確認したい。
- ・将来、執務空間をフレキシブルに活用することも考え、可変性を持たせる空間と固定で利用する空間を分けて考える必要がある。
- ・質問に対し、回答できる能力があるか見ることも大事である。
- ・最終的に選考するにあたっては、キーワードを満たしていないことによる減点だけではなく、加点によって評価する必要もある。

② コスト削減の考え方について

- ・コスト削減の方法は、プレゼンで具体的な説明があると思うが、的確かどうか見ていく必要がある。
- ・イニシャルコストを抑えたために、ランニングコストが上がるような提案となっていないか、そのバランスを見る必要がある。質疑によりその能力を見る必要がある。
- ・コストだけを重視するとつまらない提案になる。

③ デザイン・敷地利用の考え方について

- ・交通動線の計画は、交差点協議に無理がないか見る必要がある。
- ・新第2庁舎は、仮庁舎利用時には本庁舎同等の機能となるので、その間の駐

車場、議場、窓口の考え方を確認する必要がある。

- ・デザインは絵のうまさではなく、如何に合理的に考えているかを確認しなければならない。
- ・新第2庁舎の緑地の整備は、新第1庁舎の工事にあわせ、遅らせるような工程の考え方があってもよかった。
- ・車両動線は、歩車分離が検討されているか確認したい。
- ・緑地はどの案でも提案されていたが、維持管理の問題がある。
- ・緑地は多ければよいものではなく、駐車場などとのバランスが重要である。
- ・外部動線を庁舎内に引いている提案については、時間外のセキュリティをどう考えているかを確認する必要がある。
- ・駐輪場台数について、目安はないか。

⇒現状として、本庁舎に来庁者用 200 台、本庁舎の周辺に職員用 350 台、分庁舎に職員用 200 台として、設計者に情報提供している。

④ 時代の変化に対応した庁舎の考え方について

- ・人口推計はどうか。

⇒人口は47万人をピークに推計値では37年度に約44万人、その後は、厳しく見てピーク時から10万人は減らないと見込んでいる。

- ・新第2庁舎は、用途転用していくことも考慮した方がよい。特に周辺に公共施設があり、一体の活用もポイントになる。
- ・市民利用部分の区分や動線を検討しているか確認する必要がある。
- ・将来は、新第1庁舎に集約される可能性もある。

(まとめ)

- ・今出た意見については、評価の視点としてはっきりさせるため、以上をまとめ採点に配慮すること。

⇒対応する。

(3) プレゼンテーションでの質疑の進め方について

- ・事務局の進行により、各自、自由な質問を行う。

(4) その他

- ・公開プレゼンテーション後の採点結果は、12月19日までに事務局に提出を依頼する。

【午前11時40分閉会】